

平成29年度愛媛県後期高齢者医療広域連合懇話会 <会議概要>

1. 日 時 平成30年1月18日(木) 18:30~19:53

2. 場 所 松山市民会館 3階 第5会議室

3. 出席者

(1) 懇話会委員 (50音順)

赤根 良忠 委員、秋山 昌江 委員、天野 安男 委員、
井花 繁 委員、今村 旭 委員、河野 保子 委員、久保 奈知子 委員、
田頭 和恵 委員、恒吉 和徳 委員 計9名

(2) 事務局

藤本事務局長、芳之内事務局次長兼総務課長、志賀事業課長、
横山総務企画係長、山下資格管理係長、近藤医療給付係長、
尾賀主事、楠橋主事、大川主事、上岡主事 計10名

4. 傍聴者 一般2名、報道関係1社

5. 議 題

- (1) 財政状況について
- (2) 平成30・31年度の保険料について
- (3) 第三次広域計画(案)について

6. 質疑・意見交換等

(1) 財政状況について

なし

(2) 平成30・31年度の保険料について

(委 員) 保険料率の上昇抑制の取り組みについて、第5期は一人当たり保険料が0.36%増だが、第6期は1.73%増となっている。これは第5期の保険料を抑制したことによる反動か。

(事務局) 第6期は医療給付費等の増加に加えて、国の軽減特例の縮小が大きな要因となっているため。

(委員) 軽減特例縮小の背景は、国の負担増を避けるためか。

(事務局) 特例による軽減であること、将来に渡って持続可能な医療制度とするために、一定の所得がある方に応分の負担を求めており、段階的に縮小している。

(委員) 軽減特例の見直しについて、対象者にいかに周知を図るかということが重要になってくる。

(委員) 保険料の収納率は。

(事務局) 平成28年度の収納率は99.50%、全国で16番目に高い順位。

(委員) 保険者支援金の負担が大きく、被保険者の医療費を賄えず解散する保険者がかなりある。保健事業等を含め、支援金の抛出率を下げていくことができるような色々な取り組みをお願いしたい。

(委員) 医療保険の根本的な問題で、現役世代に重くのしかかっている。国民全体で考えていかなければならない重要課題となっている。

(3) 第三次広域計画(案)について

(委員) ジェネリック医薬品について、どのくらいの使用割合があり、第三次計画においてどれくらいを目標とするのか。

(事務局) 平成28年度で63.9%、国は32年9月までに80%以上を目指している。当広域連合も同様の目標としていきたい。

(委員) 健康診査事業について、受診率向上のためにどのようなことを検討しているのか。

(事務局) 平成28年度で10.2%。各市町に国保の特定健診に準じて事業委託している。町では受診率が高く、市では低いため、各市町の取組状況について情報提供している。広域連合で受診勧奨をしているが、より効果的な受診勧奨を進めたいと考えている。

(委員) 受診率が向上すれば、重症化予防の推進につながるのでは、努力してほしい。

(委員) 保健事業の推進について、具体的な疾病等を分析、把握してみてはどうか。それにより広報活動にもつながるのではないか。

(事務局) 保健事業実施計画等については、次回懇話会で報告させていただく。

(委員) 重複・頻回受診者の訪問指導の効果は。

(事務局) 次回懇話会で報告させていただく。

(委員) 重症化予防について、医療受診だけではなく、介護保険の総合事業につなげていくのが大事ではないか。

(事務局) 介護分野との連携がないため、検討していきたい。

(委員) 保健事業実施計画について、国・県・広域連合・市町がどのように関わっていくのか。

(事務局) 診療情報、健康診査等の情報により被保険者の状態を分析し、保健指導等により中長期的に医療費の削減等を目指すものであるが、国及び県が策定する「第3期医療費適正化計画」と歩調を合わせて実施していくものである。

(4) その他

(委員) ジェネリック医薬品差額通知について、切り替えて安くしたいが、医薬品名称が片仮名で分かりにくい。

(委員) お薬手帳を持参して薬局で相談して欲しい。何の薬か知らないまま服用するのは危険。

(事務局) どうすれば、分かりやすいものになるのか、今後も検討していきたい。

(委員) お薬手帳が小さい。記載されている文字も小さい。大きくなるのか。

(委員) 大きいと携帯に不便との声もある。全国的にほぼ同じサイズ。将来は電子化の動きもある。

以上